地方協議会での取組状況(21年度)

組織名	北海道米粉食品普及推進協議会

	内　　容
連携の確立や供給体制の整備	○「米粉フェア2010～発見!もっちり、ふんわり、新しい粉食～」(22年3月9日予定) FAN推進本部、農林水産省では、新しい食の可能性を広げ、食料自給率向上に向けた取り組みの一環として、米粉倶楽部を中心とした全国的な広報活動を2月中旬から3月にかけてマスコミ等を通じて実施している。この広報活動に合わせて北海道農政事務所(FAN北海道)は、道内(一部道外)の米粉に関わりのある、団体・製粉業者・製麺・製パン・製菓業者等とバイヤーとの交流を深める機会を提供するとともに、米粉ニーズの掘り起こしに向けたセミナー及び商談会を実施する。当協議会は後援として協力し、会員14社においては、広く一般消費者に米粉や米粉製品を知っていただくために、セミナーの講師、米粉・米粉製品・試作品等の展示及び試食品提供等を行うことにより参加協力する。
需要拡大の取組	○「北のめぐみ愛食フェア2009」(21年5～11月) 同フェアは、生産者が産地や食材の情報提供をしながら、消費者の方々と対面販売により直接交流することを目的に、毎年5月から11月までの間、全道各市町村で週末型産直市として開催されるものである。当協議会会員は、道内各地での開催に参加し、例えば、「すぎうら」(美唄市)は赤れんが前庭会場(札幌)に出店し、米粉パン等をPRし、マスコミにも大きく取り上げられ、消費者に対し米粉食品の更なる普及につなげることができた。 ○「第5回農産物直売フェスタ」(21年9月12日～13日) 同フェスタは、一般市民に北海道産の農畜産物及びその加工品の直売を行うことにより、道産農産物等の安全性、地産地消の考え方及び農業農村が持続的な発展をすることの重要性について理解を深めてもらうことを目的として開催されるものである。当協議会会員からは、「すぎうら」(美唄市)、「(有)大和納華」(旭川市)、「(有)モンパリ」(岩見沢市)、岩見沢米粉事業推進協議会(岩見沢市)が出展し、米粉パンや米粉めんなどの販売を行った。JR札幌駅前での開催であることから、多くの市民や観光客に対し米粉食品の認知度向上の活動を行うことができた。 ○「親子料理教室～パパと作る米粉スイーツ～」(21年12月12日) 北海道農政事務所は、家庭における食育の重要性及び食糧自給率向上の必要性について理解を深めてもらうことを目的として、「親子料理教室」を開催した。当協議会も後援として協力し、会員である「岩見沢米粉事業推進協議会(岩見沢市)」が米粉の提供を行った。料理教室には、10組22名の親子が参加し、米粉のカップケーキを共同作業で調理・デコレーションした。料理の合間や試食時に「米粉講座」・「米粉クイズ」等を実施したこともあり、家庭における米粉の活用と米粉の知識を得る良い機会だったとして、参加者からは評価の声が寄せられた。 ○米粉料理教室「米粉でホワイトソースを作ろう～はじめての米粉グラタン～」(22年3月7日予定) 「FOOD ACTION NIPPON」の活動の1つとして、米粉の消費促進を拡大するための活動として「米粉倶楽部」が立ち上げられ、2月中旬～3月にかけて、一般消費者向けに米粉を積極的にPRするため、CMやメディアを使ったキャンペーンが展開されている。北海道農政事務所は、この期間にあわせて米粉の更なる普及の一環として、家庭における米粉料理の普及・定着を図り、食料自給率向上への意識を高めることを目的として、「米粉料理教室」を開催する。当協議会も協力し、会員である「岩見沢米粉事業推進協議会(岩見沢市)」が米粉の提供を行った。
その他	○「米粉食品に関する取組事例集(改訂版)」(22年3月) 当協議会と北海道農政事務所は、道内における米粉食品取扱店や取組状況を収集し、取組事例集を発行する。 ○旭川市は、平成22年度から米粉を使ったパンの開発支援・販路拡大・学校給食への導入などを目指す「あさひかわ米粉プロジェクト」に取り組むこととし、学校給食に米粉パンを取り入れて、米どころの旭川市として地産地消につなげることとしている。